

Week of October 11, 2026 - You're Not Your Own　　Small Group Study 17

知り合う

あなたが子供の頃を思い出してみてください。親から厳しく制限されていたけれど、大人になるにつれてどんどん食べるようになってしまったジャンクフードやスナック菓子はありましたか。そして最終的に、健康のためにそれを控える必要に迫られたことはありますか。

聖句　ローマの信徒への手紙 6:15-23（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

15 では、どうなのか。私たちは律法の下ではなく恵みの下にいるのだから、罪を犯そう、ということになるのでしょうか。決してそうではない。16 知らないのですか。あなたがたは、誰かに奴隷として従えば、その人の奴隷となる。つまり、罪に仕える奴隷となって死に至るか、神に従う奴隷となって義に至るか、どちらかなのです。17 しかし、神に感謝すべきことに、あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの基準に心から聞き従って、18 罪から自由にされ、義の奴隷となったのです。19 あなたがたの肉の弱さを考慮して、私は分かりやすい物言いをしています。かつて、五体を汚れと不法の奴隷として献げて不法に陥ったように、今は、五体を義の奴隷として献げて聖なる者となりなさい。20 あなたがたは、罪の奴隷であったときは、義に対しては自由の身でした。21 では、その時、どんな実りがありましたか。あなたがたが今では恥とするものです。その行き着くところは死です。22 しかし、今や罪から自由にされて神の奴隷となり、聖なる者となるための実を結んでいます。その行き着くところは永遠の命です。23 罪の支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命なのです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか？

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 15-16節によると、私たちは恵みの下にいるのだから罪を犯すべきだろうかとパウロは問いかけています。私たちの救いは決して失われることのない確かな誕生の賜物ですが、それでもなお罪の奴隷のように振る舞うことが、神様との日々の交わりにとって危険であるのはなぜでしょうか。

2. 17-18節でパウロは、私たちは罪から完全に解放されたと述べています。自分の苦しい努力によって罪をやめようとするのではなく、ただ聖霊にゆだねることは、私たちが心から自然に神様に従うためにどのように役立つでしょうか。

3. 19節を見ると、パウロは私たちを聖化へと導く義に自分自身を献げるようにと語っています。真の聖さは行いによって達成するものではなく信仰によって受け取るものですが、日々の明け渡しは、神様の愛をより多く受け入れるための私たちの内なる器をどのように広げてくれるでしょうか。

4. 20-23節に基づいて、罪の支払う報酬は死ですが、永遠の命は完全に無料の賜物です。完璧な行いがなくても信じる者にとって天国に行くことがすでに保証されているのだとすれば、将来の御国における報いを得られるという約束は、今忠実に生きるための動機付けにどのようにつながりますか。

分かち合い

話し合い　その１

武牧師は、ジャンクフードを食べる習慣が最初はごく小さなことから始まり、それが次第に膨らんで健康を害するようになったというご自身の体験を分かち合ってくださいました。牧師は、「罪に仕えること」も「神に仕えること」も、どちらも時間をかけて少しずつ大きくなっていく「漸進的（プログレッシブ）な習慣」であると説明されました。日々の小さな選択の積み重ねが、時間をかけて大きな結果となって表れると知ることは、今日という日に「小さな良い決断」を下す上で、あなたにとってどのように大きな励ましとなりますか？

話し合い　その2

神様がどのように私たちを変えてくださるかを説明するために、武牧師は「新しい型に熱い（溶けた）金属を流し込む」というたとえを分かち合ってくださいました。私たちがイエス様を信じるとき、神様は私たちを新しい型に入れ、時間をかけてイエス様の形へと形作ってくださいます。あなたの人生において、神様が今まさに「イエス様により似た者となるよう形作っておられる」と感じる領域（分野）はどこですか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。